

No.86 contents

- 2 2026春季二科展 開催
- 3 〈絵画〉2026春季二科展 百花繚乱 見どころ満載な企画
- 4 〈絵画〉2026春季二科展 受賞作品寸評
- 5 〈絵画〉2026春季二科展 「6つの個」会場所感 特別講演
2026春季二科展 受賞者・選抜出品者
- 6 〈彫刻〉総評 前年度受賞選抜者作品
- 7 第109回二科展巡回展
- 9 二科巡回展 全国ひと回り
「NIKA+nika/S20号」最優秀賞個展・受賞者小品展
二科支部展・研究会
- 第110回記念二科展日程表・巡回展日程(予定) 出品規約QRコード
- 10 第48回 定時会員総会・部会報告 役職一覧
- 11 新体制での第110回記念展を迎えて
第110回記念二科展 特別講演案内
- 12 計報 トピックス 事務局だより 編集後記

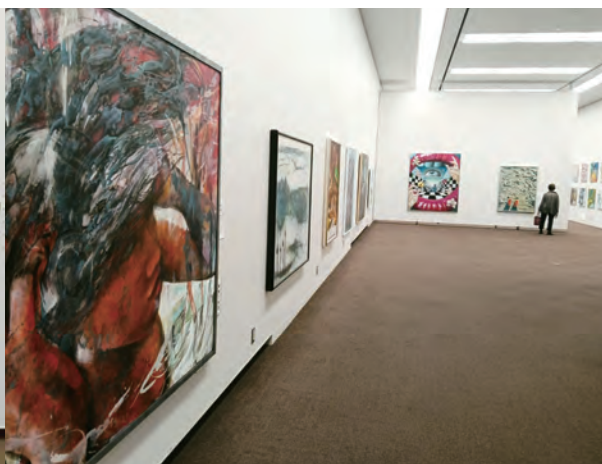


春季

発行人：吉野 毅 発行：公益社団法人 二科会

<https://www.nika.or.jp/> TEL：03-3354-6646

E-mail：nika@nika.or.jp



2026 春季二科展

2026春季二科展 開催

生方 純一

春季展は会員による実験的な制作を試みて発表する場として位置付けられていたが、年々変化してきている。

近年は前年の本展で受賞した会友と一般出品者の中から選抜した作者の作品を1室から展示しているが、今回は昨年の本展での受賞者が少なかったことから選抜者数が減少した。従って展示スペースも減少し、130号までOKというサイズの許容もあるが、大作の出品も少なく、若干寂しい感じがした。しかし出席会員による投票で決める春季二科賞と春季賞には秀作を選ぶことが出来た。

数年前から実施している「NIKA+nika/S20号」展は年々出品者が増えて展覧会委員を喜ばせているが、展示スペースの都合もあり、多数の落選者を余儀なくしたが、秀作の出品も増えた。その中から展示などで会場に来られた会員による投票で最優秀賞、優秀賞、佳作を選び初日に表彰した。それとは別に一般の鑑賞者による投票でオーディエンス賞を設けているが、会員の投票と違う作品が選ばれているのも興味深い。

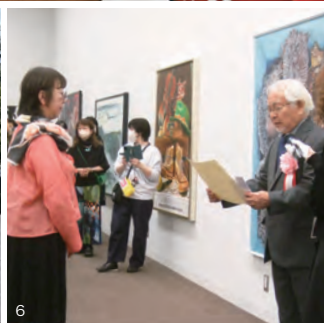
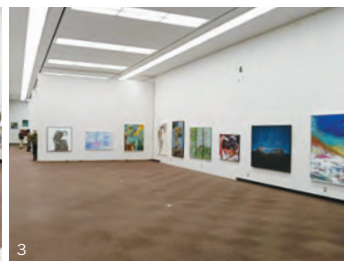
今回も個展ブースは見応えがあった。さすがに前年の本展で高位賞の受賞者の中から選ばれただけあって、選ばれた6名とも十分に実力を発揮していた。作風も個性的であったが、展示にも工夫が凝らされていて会場効果は充分だった。

彫刻部の作品は比較的小品の感じはあったが、じっくり見ると素材も多様化していて、作者も楽しんで制作しているのではないかと感じる作品が多く、見ていて飽きない、観るたびに発見があった。

絵画部で残念なのはベテラン会員の出品が少なくなっているように感じた。お元気のことと思う。

2026春季二科展

2026. 4. 18～5. 2 東京都美術館



1: 会場入口 2: S20陳列風景 3: 展示6室 4: ギャラリートーク
5: 東京都美術館 6: 春季二科賞 小野寺さん 7: 6つの個 展示室

絵画部 2026春季二科展 百花繚乱 見どころ満載な企画

山中 宣明

2週間の長きにわたる春季展でしたが、昨年より多い6,851人の入場者を迎え、無事盛会裡に終了出来ました。今回の絵画部の見どころと今後の課題等を含めて総括してみたいと思います。

■第1室 会友、一般の第109回受賞者による選抜展 さらに狭き門

会友10名、一般5名の昨年よりかなり厳選の受賞者選抜の恒例の企画となりました。

第1室を広くしてすっきりと一部屋にまとめたので、一点一点じっくりと鑑賞でき、賞審査の際も部屋ごとの印象が変わることなく投票がしやすいとの声がありました。

課題として110回は記念展になるため受賞者増が見込まれ、選抜者も増える可能性があり、それに対応した展示計画が必要になります。また130号の大作が少なかったため、会員の本展での出品作で多い130号に、特に会友の選抜者はぜひ挑戦する強い意欲を期待します。

■「NIKA+nika/S20号」コンクール

オーディエンス賞が問いかけるもの・愛される絵画

昨年来を上回る329名、487点の応募があり、厳正な審査の結果200名が入選（内2点入選16名）、展示作品は約半分の216点と、入選率だけを見れば本展以上のまさに厳選でした。ひとえに全国支部の出品奨励の賜物であり、惜しくも選外となった出品者には会を挙げてアドバイスなどのフォロー体制を取っています。

最優秀賞は中和ギャラリーでの企画個展、受賞者は全員第110回記念展の休憩室に特別展示の予定です。

課題として、厳選が出品者減ではなく、作品のクオリティの向上につながる審査をしなければなりません。また入選者数や展示数・スペースを春季展という全体の中でどのようなバランスにするかは春季展そのものの趣旨にかかわる大切な課題です。

好評なオーディエンス賞は入場者が時間をかけて鑑賞し投票によって決定します。会員は制作者としての眼、鑑賞者は個人的嗜好の眼で観ますので、当然ながら選ばれる作品には違いが出ます。個人の芸術追求としての絵画と鑑賞者が愛する絵画の価値観が、時には

重なり時には相反する、絵画の在り方が可視化できる興味深い賞だと感じます。

■6つの個

第109回の内閣総理大臣賞、東京都知事賞、二科賞、パリ賞、SOMPO美術館賞、上野の森美術館奨励賞の受賞者6名がそれぞれに個の世界を繰り広げ、見応えのある展示空間でした。

団体展はともすれば会というくくりで評価されがちですが、作家は個。今後もいかに個々の作家を特化して展示していくか大きな課題です。また受賞作家の力量を問われると同時に賞審査した会員の鑑識眼も問われるコーナーともいえると思います。

■140名の会員

春季展の大黒柱、要である会員の作品は、抽象傾向、具象傾向、会員賞受賞者、50号以下の作品コーナーなど、部屋ごとに特徴を読み取れる展示で、昨年より作品間も多く取り、昨年以上に一点一点の力作が鑑賞しやすかったように思います。

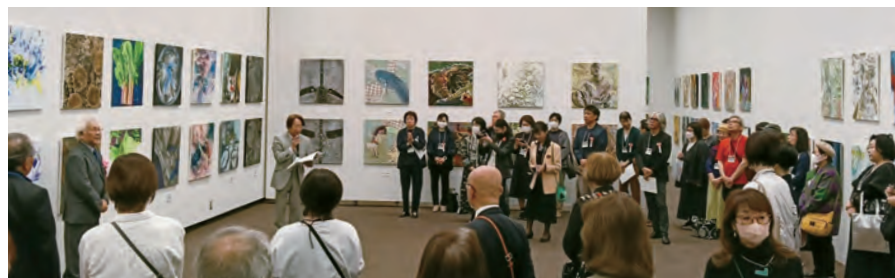
課題としてフリースペース等の企画を休止しているため、展示としてメリハリに欠けないようにすること、要である会員の作品をもっとアピールできる展示場所等検討していくべきとの意見もありました。

■特別講演 水沢勉氏 故二科会員中原實の在野精神

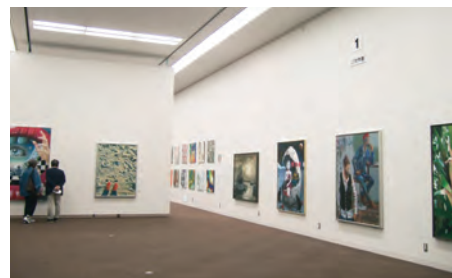
元神奈川県立美術館館長の水沢勉氏による特別講演では過去の数々の巨匠ではなく、中原實の二科会に留まらない作家活動に焦点を当て、そこから見えてくる在野精神や自由な発表の場を求めて模索・格闘する姿をあぶり出し、我々現二科会会員にも多くを投げかける講演でした。

今後、特別展示として過去の二科の作家を深掘りし、「一生かけて作家になる」を実現しようとした作家を紹介していく企画も期待されるそうです。

来年の春季展は、展示もロビー階になり期間も1週間になる予定ですので、さらに凝縮した密度のある展示を目指していきたいと思います。



初日ギャラリーツアー



展示1室



S20最優秀賞 安井陽子さん



展示構成



個人搬出 作品アドバイス

2026春季二科展 受賞作品寸評



小野寺 さゆり 「風心地」 F130

春季二科賞

小野寺 さゆり

確かなデッサン力で捉えられた人物の造形と疾走感のあるストロークが一体に交錯し、抽象と具象の境界を捉える運動性とエネルギーを感じさせる。穿たれたような眼が特定の情感の混入を拒む企みか、クールな意志が構成に生きる。
(野村 みそら)



加藤 千保子 「足あと」 F80

春季賞

加藤 千保子

足元の視点から始まる転回、砂の痕跡はさりげなく方向性を決め、中心の黒い点は遠近法の消失点の役割を果たしている。リアリティな様式はルーティンになりやすいが次なる表現目的に期待を感じさせる。
(森岡 謙二)



安井 陽子「クリスマスローズ逆光」

S20最優秀賞 安井 陽子

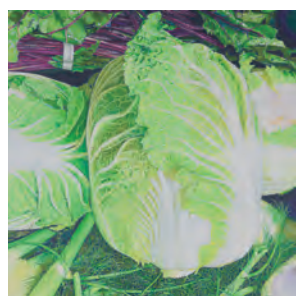
透明水彩で丁寧に描かれ優しく心地よい作品になっている。水彩画の特性を活かした滲ませ効果が花びら、葉、影にもみられ、また色選びも素晴らしい。絵の中の物語がどう変化していくか楽しみです。
(加藤 ひとみ)



秋常 留依「浄化」

S20優秀賞 秋常 留依

時間をかけた精密画で動的な建物を漆黒のバックがよりドラマチックにしエメラルドグリーンのような宝石のような輝きの部分が作品を引き締め、視点の面白さと想像力の豊かさに感銘を受ける佳作である。
(皆川 恵子)



高尾 小百合「シロナ」

S20優秀賞 高尾 小百合

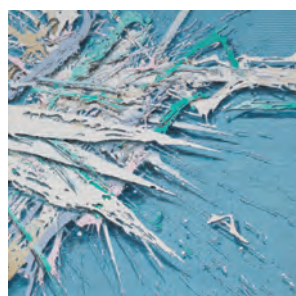
水彩と色鉛筆で描かれている。本物と見間違えう位の圧倒的な描写力が素晴らしい。白菜の葉脈の一本一本まで緻密に描かれており、こだわりを感じる。両脇の白菜を切った事により画面構成が広がり成功している。
(加藤 ひとみ)



植草 正利「sign 8」

S20優秀賞 植草 正利

繊細な線と淡色の黄色の塗り込みによる抽象表現の作品は葉の花畑の中にいるようで春風を感じる清涼な作品に仕上がりました。作家の意図するSIGNのイメージが作品にもう少し表現できるとよかったですね。今後塗り込みにより奥行が表現できると楽しみです。
(佐藤 英行)

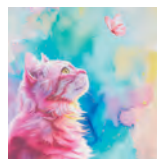


近藤 隆弘「記憶の飛翔」

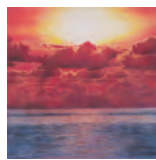
S20優秀賞 近藤 隆弘

マットな画質が特徴であり、影の強弱をモノトーンで描き、外側に向かう動きを重なり合う面のホルムで作者の意図することが発信され、中間色も生かされつつ現代的な力強い重厚な作品です。
(皆川 恵子)

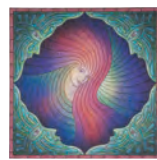
■ S20オーディエンス賞



竹澤 イチロー



小川 杏奈



西澤 克実



加藤 玲依

絵画部 2026春季二科展 「6つの個」会場所感

粕谷 正一

第109回二科展受賞作家6名が自ら展示構成した会場は、具象表現の「6つの個」が競い合う空間となっていた。個展形式で企画された特色ある会場の作品群について、其々の特質や魅力を寸評の形で捉え、会場所感とする。

北村美佳作品（内閣総理大臣賞）は、スピード感のある筆致による掠れや拭き取り、垂らし込み、グラッシ、厚塗りなど、さまざまな技法を用いて画面全体に複雑なマチエールを生み出し、変形画面に描かれた果実がダイナミックな展示効果をあげている。

毎年「家族」をテーマに制作している茶谷弥宏作品（東京都知事賞）は、風景の中に家族が半透明のカタチで登場し物語を紡ぐ、ダブル・トリプルイメージのセピア調の柔らかな色彩の作品群である。

猪立山三鈴（SOMPO美術館賞）は「花」をテーマに、白を基調とした柔らかな淡彩で植物の美しさや儚さを表現し、色のにじみやぼかしを効果的に用い、大小さまざ

まなパネルに金銀箔を取り入れた表現が特徴的である。

楠本加津江（上野の森美術館奨励賞）は、街中のショーウィンドウに映り込んだ風景と店内の風景を重ね合わせたダブルイメージを描き、店内外のどちらにも焦点を定めることなく、虚像と実像を同じ筆致で表現している点が興味深い。

大山カリーナ（二科賞）の作品は、画面に対する手触り感や制作との格闘の痕跡が、ただ美しく描くだけではなく、人の手による塗り直しや描き直しの痕跡が残されることで、観る者により深い感動を与える作品となるだろう。

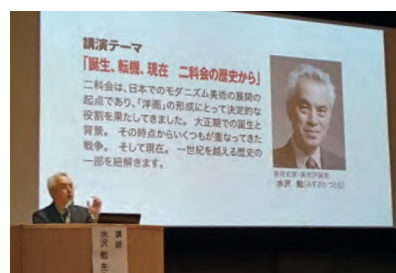
瀬川ゆかり（パリ賞）は、鳥や草花の描写が色調の変化を伴って丁寧に描かれているが、植物の葉の輪郭を取る白線がやや目立ち過ぎる印象を受けた。また、鳥も複数羽を大きさやポーズを変えて配置すると、画面にさらなる変化が生まれるのではないだろうか。



■2026春季二科展 特別講演「誕生、転機、現在 二科会の歴史から」

講師 水沢 勉 氏（美術史家・美術評論家） 4月25日（土）：東京都美術館 講堂

現在の作家と100年前の作家。そこには確かに継承されている質感と魅力が存在していたこと。第一次世界大戦という時代背景の中、中原實というひとりの个性的な作家に焦点をあて、二科会の転機とその性質を紐解いていく。海外軍医を経験し、歯科医であり画家であり、三科や九段画廊設立など、時代を動かす力。二科展だからこそ成立した个性的で新しい表現者への柔軟な発表の場について。戦争、震災、コロナ、そしてAIなど、押し寄せる時代の波の中で二科会の歴史をふりかえり、これからを考える2時間となった。



2026春季二科展

受賞者・選抜出品者

春季二科賞 春季賞

小野寺さゆり〔宮城〕
加藤 千保子〔宮崎〕

絵画部 ◆個展選抜

S 20 最優秀賞

安井 陽子〔京都〕

S 20 優秀賞

秋常 留依〔北海道〕

植草 正利〔千葉〕

近藤 隆弘〔愛知〕

高尾小百合〔東京〕

楠本加津江〔大阪〕

S 20 佳作

金子 豊実〔埼玉〕

酒井 理花〔神奈川〕

飛田 光江〔千葉〕

清 尚子〔静岡〕

藤森 英恵〔青森〕

永田 喜章〔長崎〕

小野寺さゆり〔宮城〕

白石 一宏〔宮城〕

岸 ユキ〔東京〕

林 里美〔滋賀〕

池上 妙子〔佐賀〕

小川美由紀〔埼玉〕

S 20

オーディエンス賞

竹澤イチロー〔東京〕

小川 杏奈〔宮城〕

西澤 克美〔千葉〕

加藤 玲依〔東京〕

中村たみ子〔宮城〕

竹川 美里〔北海道〕

杉森 修〔栃木〕

白石 一宏〔宮城〕

加藤千保子〔宮崎〕

加藤千保子〔宮崎〕

加藤千保子〔宮崎〕

加藤千保子〔宮崎〕

加藤千保子〔宮崎〕

加藤千保子〔宮崎〕

加藤千保子〔宮崎〕

加藤千保子〔宮崎〕

加藤千保子〔宮崎〕

加藤千保子〔宮崎〕

加藤千保子〔宮崎〕

加藤千保子〔宮崎〕

加藤千保子〔宮崎〕

彫刻部

2026春季二科展
総評

吉野 毅



彫刻部 展示室

2026春季二科展が、4月18日から5月2日まで、東京都美術館で開催された。彫刻部は、会員・会友の出品希望者・前年秋季二科展受賞者を招待し、56点を展示した。春季二科展は、昭和53年4月セントラル美術館に於いて、秋の本展に対し実験的創造の場として発足し、新宿伊勢丹美術館に会場を移し、昭和61年から平成16年までは銀座松屋で行われてきた。それ以降は会場の都合で春季展を開催することができなかったが、公募展の多くが、国立新美術館に移動したことにより、平成20年東京都美術館で開催することができたのである。彫刻部にとっては、松屋での開催当初から、展示会場の狭さが問題となり、春季展廃止論まで出る大変厳しい状況での参加が続いたので、展覧会の意義も、出品規定も曖昧にしてきたのが実状であった。

彫刻を、無限定な三次元の空間に独立している造形物とした場合、彫刻作品に込められた作者のメッセージを読み解くために、鑑賞者が、作品の回りを、自由に移動することができるスペースが必要となる。そして視点の移動によって彫刻の表情は変化し、鑑賞者は、特定のイメージを押しつけられることもなく、自発的なイメージの世界に入っていくのである。

東京都美術館の白い壁に囲まれた天井の高い空間には、具象的表現、抽象的表現を問わず、素材としての彫刻の実体が、多様な言葉として存在していた。そして台座なしで床に直接置かれた彫刻が、空間を引き締める効果を発揮し、会場全体に心地のよいリズムをつくっていた。しかし空間を支配するべき量塊の物足りなさも感じたことも否めない。

2026春季二科展 彫刻部 前年度受賞選抜者作品



梅田 勝裕 「男と女」



与島 雪 「あきちゃった」



友國 華 「真心」



吉田 香世 「KATABUI MESSENGER」



笹井 南海 「Tap here」

2025第109回 二科展巡回展

109TH NIKA ART EXHIBITION



巡回大阪展は10月29日より11月9日まで、改装工事の終わった大阪市立美術館で開催しました。絵画129点(全国巡回作品47点、巡回しない関西の会員9点、会友25点、一般48点)、彫刻16点(会員13点、会友1点、一般2点)、デザイン116点、写真140点の総出品点



■大阪展

令和7年10月29日
～11月9日
大阪市立美術館

数401点による展示です。絵画部は、従来この会場では110点を超える全ての巡回作品を陳列していましたが、巡回作品が半数以下になった分、随分ゆったりとした展示になりました。昨年までの臨時会場(尼崎市総合文化センター)での展示が暗く窮屈だったので、今回の展示は作品が一点一点よく見えると好評でした。しかしながら、以前の展示を知っている方からは、巡回作品が少ない分見応えがないという意見もありました。併催の「第74回こども二科展」や「ワンポイントアドバイス」、デザイン部主催の「Web全国ポストカードデザイン大賞」などの展示を加え、大阪万博以後の秋の文化イベントとして幅広い世代に訴求しました。総入場者は12,140人(昨年10、276人)と大きく増加しましたが、以前のこの会場では約15,000人の入場者を得ていたため、過去3年の臨時会場開催の影響による入場者離れの感を拭いきれません。第110回記念展に向けて、より地元アピールできる展覧会になるよう頑張りたいと思います。

(高畑 彰)



第109回巡回京都展は、秋空の元11月の気候の良い時期に開催することが出来、会期中天候にも恵まれ、初日から多くの来場者があり盛況のうちに終了することが出来ました。入場者数は、6日間の短い期間ながら、



■京都展

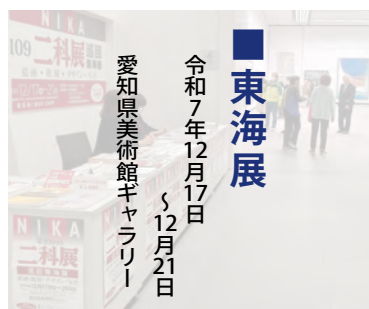
令和7年11月25日
～11月30日
京都市セラ美術館

ら、5,886人と昨年より344名多い人数となりました。絵画部は全国巡回47点、地元61点、彫刻部は全国巡回9点、地元3点の計120点の作品を展示、絵画部の京滋関係の受賞者は、内閣総理大臣賞(北村美佳)、パリ賞(瀬川ゆかり)、巡回京都展の京都新聞賞(浅野紘史)の各氏でした。デザイン部は、全国巡回作品60点と京・滋関係の3点計63点を展示、写真部は、京滋地域の会員や会友の作品、一般公募の単写真部門、組写真部門、young部門の入選・入賞作品を中心に計82点を展示、4部門で合計265点を展示しました。会期中11月28日に実施した、田川絵理理事によるギャラリートークも、多くの来場者が参加され、熱心に解説を聞いておられました。また開催初日11月25日にはオープニング懇親会も開催出来、担当会員の進行で、和やかな楽しいひとときを過ごすことが出来ました。今回も京都市美術館の独特な空間で、絵画と彫刻との融合展示、また写真部、デザイン部との4部門展示は、バラエティーに富んだ良い展示空間となりました。

(古保木 雄二)



第109回巡回東海展は、毎年10月に愛知県美術館ギャラリーで開いていたが、今年は国際芸術祭「あいち2025」の影響で年の瀬が押し迫った12月17日(水)～12月21日(日)に迫りやられてしまった。入場者が来てくれるか心配しつつ開いたが、5日間の入場者4,436人を数え、連日熱気あふれる風景を見ることが



■東海展

令和7年12月17日
～12月21日
愛知県美術館ギャラリー



(堀尾 一郎)

が出来た。又招待者ばかりでなく、当日券1,000円を支払って入場した人が291人、一日平均58人で、北川民次先生以来の二科ファンが続いていることに心を強くした。

なんと言っても二科の良さは、絵画部だけでなく多くの部門からなる出品者であり、それぞれの部門のファンが入場されることで、二科展の強さを発揮していると思う。出品点数は絵画142点、彫刻19点、デザイン94点、写真233点と、地方展としては充実した点数となった。



第109回二科展巡回鹿児島展は、令和8年1月11日(日)～18日(日)、鹿児島県歴史・美術センター黎明館で開催された。

初日、協賛を始め関係者のご列席の下、開場式を行った。その後、西健吉常務理事がギャラリートークを行い、作品にまつわるエピソードを交えた解説で来場者を楽しませた。会期中、土、日の午前、午後それぞれ



鹿児島展

令和8年1月11日
～1月18日

鹿児島県歴史・美術センター
黎明館



ぞれ会員によるトークを実施し、毎回30人以上の参加者がいた。

今回から会期を1月の早春に変更したことで告知が図れたか不安はあったが、7日間で2,208名の入場者数は、本展を楽しみにしている根強いファンがいることを裏付けるものとなった。また、会場である黎明館が改修工事のため、例年より狭いスペースでの開催となったが、一つの会場に4部門があることで、気になる作品を何度も往来して鑑賞しやすかったという来場者の声も複数あった。

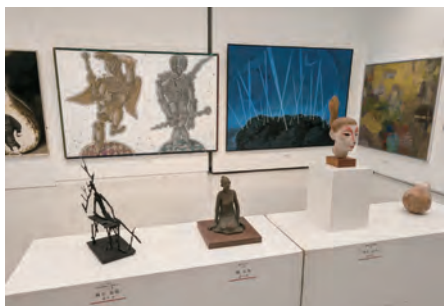
会場入口では、今回も当支部員による小作品のチャリティー販売を実施し、売上の一部は大分県大規模火災義援金に寄付した。

本展の開催に向け輸送費

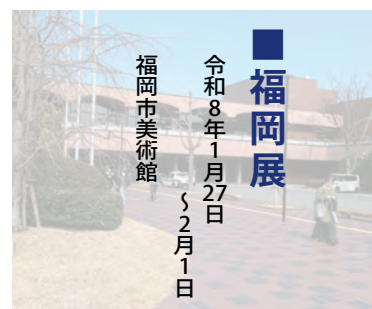


を含む委託費や運営に関わる経費の見直しや宮崎県同人の巡回展への参加という広域で協力する試みは、第110回記念展に向けて新たな運営の可能性を探る試金石となったといえる。幅広い世代に鑑賞いただけるポテンシャルを有する本展が県民に対して芸術文化への関心を高める重要なイベントとしてあり続けるために、主催の南日本新聞社の広報に加え、Web告知による普及の工夫をさらに行っていきたい。また、入場料や各種販売物が現金のみのため、カード対応化が進むとさらに入りやすい展覧会となる可能性が高いが、本県の施設の課題であろう。

(祝迫 正豊)



4部門(絵画107人・107点・彫刻9人・9点・デザイン70人・73点・写真89人・89点)全国巡回作品と地元入選作品合わせて275人278点を展示し、3,286人の方に御来場いただきました。二科福岡支部、二科山口支部、二科大分支部、二科佐賀支部、二科長崎支部、二科会デザイン部福岡支部、二科会写真部福岡支部の協力のもと、



福岡展

令和8年1月27日
～2月1日

福岡市美術館

無事終了することができました。

巡回福岡展関係分の受賞者は1人(福岡1)、二点入選者が4人(福岡4)。初入選者は4人(福岡2・佐賀1・長崎1)でしたが、猪立山三鈴さんのSOMPO美術館賞と会員推挙のダブル受賞が輝いていました。絵画部の会場は、前回好評につき「大作の多い巡回作品+地元会員作品」と「受賞作品+地元作品」とを大きく二つに分け迫力のある展示構成としました。かなり面積が狭いため、2段展示も含め会場構成担当の小川幸男会友を中心に工夫を重ねました。デザイン部・写真部は、会場が狭い独立した展示室でしたが、作品を絞り込み見やすいコンパクトな展示構成を心掛けました。

当巡回展のみの西日本新聞社賞を会員により選考し、最終日に各展示フロアで表彰いたしました。今回絵画部は坂田蓉美(福岡)、島田智子(佐賀)、岡部厚祐(長崎)、デザイン部は呉炳琦(福岡)、写真部は吉村邦彦(福岡)の5氏が選出されました。

例年開催のギャラリートークは1月27日(火)11時から、2月1日(日)13時30分

から、会員・会友等により解説を行いました。自作の前でコンセプト・技法・エピソード等を語る形式で、観覧者からいろいろな質問が出て、作者との温かいコミュニケーションの場となりました。今回2月1日は、突然ご来福いただいた瀧澤賢福運営委員に飛び入りでギャラリートークに参加していただきました。二科会の伝統への思い・絵に対する真摯な姿勢と取り組み等についてのお話を心を新たにいたしました。

広報については、西日本新聞に、猪立山三鈴会員（SOMP O美術館賞・会員推挙）の出品作品「ひらけ初む」と展覧会の紹介が掲載され、また有明新報に、牟田志津子会友「壊・Ⅱ」、塚本和美会友「森羅万象①」、鷹尾重徳氏「初夏の約束（Ⅰ）」の出品作品が掲載されました。またテレビ西日本のニュース等でも展覧会の様子が紹介され、SOMP O美術館賞受賞・会員推挙の猪立山三鈴会員の作品紹介・インタビュー等も放映されました。また、福岡県美術協会広報誌FAS 70号には、展覧会の告知と小川幸男会友の出品作品「残響」が掲載されました。（田浦 哲也）

二科巡回展 全国ひと回り 渡辺優文字

長年、絵画の全国巡回作品は1200点前後であった。しかし広島・金沢巡回展の中止や運搬費の高騰などが重なり、今回から巡回作品が47点と大幅に減った。会場の広さも特色も異なる五つの巡回展がどのような展示になっているか興味津々、今回は思い切って全会場をひと回りした。

大阪…すべての巡回作品が展示される会場として楽しみであった。今回は作品の間隔が広く大作がいっそう際立っていた一方で、通路側壁面には広い空間も。

京都…会場が狭いゆえに、ここに展示されることは特別感があった。今回は入口のポストカード売場を撤去して全巡回作品を展示、レトロな魅力は健在。

東海…国際美術展「あいち2025」の影響で今回は12月の会期、絵画の展示スペースも1部屋少なく巡回作品のうち6点が展示出来なかった。

鹿児島…美術館が改装中で部屋数も少なく仕切りを入れながら全巡回作品を展示。「初入選」と書かれた金色の札に支部の温かさが伝わってきた。

福岡…限られた展示スペースで全作品を収めるためのご苦労が伝わる会場であった。支部作品の二段掛けには申し訳ない思いも抱いた。

第110回記念展に向けて 各地で二科支部展・研究会開催

- ・関西二科展 3月3日(火)～3月8日(日)
- ・中部二科展 3月17日(火)～3月22日(日)
- ・二科長野支部展 4月14日(火)～4月19日(日)
- ・埼玉支部展 4月28日(火)～5月3日(日)
- ・群馬支部展 5月9日(土)～5月13日(水)
- ・北海道支部展 5月12日(火)～5月17日(日)
- ・茨城支部展 5月16日(土)～5月21日(木)
- ・千葉支部展 5月19日(火)～5月24日(日)
- ・山梨支部展 5月26日(火)～5月31日(日)
- ・栃木支部展 5月28日(木)～5月31日(日)
- ・静岡支部展 6月3日(水)～6月7日(日)
- ・神奈川支部展 6月3日(水)～6月8日(月)
- ・二科東北支部展 6月6日(土)～6月10日(水)
- ・福島支部展 6月13日(土)～6月21日(日)
- ・二科西人社展 6月17日(水)～6月21日(日)
- ・北陸支部展 6月23日(火)～6月28日(日)
- ・京滋支部展 6月23日(火)～6月28日(日)
- ・東京支部展 6月23日(火)～6月29日(月)
- ・富山支部展 7月9日(木)～7月12日(日)

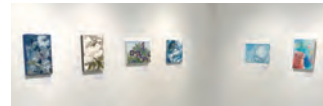
★各会場風景は二科会 Instagramで発信中です

「NIKA+nika/S20号」最優秀賞 笹島裕美 個展・受賞者小品展

6月23日～28日、中和ギャラリーにて開催。

オープニングパーティには理事長をはじめ多くの会員が駆けつけ、激励の言葉が寄せられ、会場は温かい雰囲気になりました。小品出品者も東京・茨城・静岡・新潟など各地から参加し、交流と親睦の機会となりました。

2026春季二科展「NIKA+nika/S20号」
最優秀賞による個展並びに受賞者展
2026 S20最優秀賞：安井陽子 個展
2027年6月1日～6月6日 中和ギャラリー



二科会 Instagram

二科展の様々なシーンを
発信しています



ART_NIKA_NIKATEN

一般の出品規約は
下記のQRコードから
ダウンロードできます



第110回記念二科展 日程表	
8月	20日(木) 搬入(業者・個人)
	21日(金) 搬入(個人) 16時まで
	22日(土) 25日(火) 審査
	26日(水) 入落通知発送
	28日(金) 29日(土)
	業者選外作品搬出
	30日(日) 選外作品搬出「彫刻」
	31日(月) 9月1日(火)
	個人選外作品搬出
9月	1日(火) 展示日
	2日(水) 展覧会初日
	作品研究会
	「絵画」11時
	授賞式・推挙式
	「絵画・彫刻」12時
	懇親会 16時
	6日(日) ギャラリートーク
	「絵画」13時30分
	「彫刻」14時
	8日(火) 休館日
	12日(土) 第110回記念特別講演
	13時30分
	14日(月) 展覧会最終日
	14時まで
	15日(火) 搬出「絵画・彫刻」
	16日(水) 搬出「絵画」

第110回記念二科展 巡回展日程(予定)

◆東海展	
愛知県美術館ギャラリー	令和8年10月14日(水)
	10月18日(日)
◆大阪展	
大阪市立美術館	令和8年10月27日(火)
	11月8日(日)
◆京都展	
京都市京セラ美術館	令和8年11月17日(火)
	11月22日(日)
◆福岡展	
福岡市美術館	令和8年12月8日(火)
	12月13日(日)
◆鹿児島展	
鹿児島県歴史・美術センター	令和9年1月10日(日)
黎明館	1月17日(日)

令和8年 第48回 定時会員総会

令和8年5月31日午後1時より、第48回定時会員総会が東京都美術館・講堂に於いて開催された。会員総数237名、出席会員90名、出席理事19名、出席監事1名、委任状103名により今総会の成立が確認された。

出席理事…

生方純一 山中宣明
塙 珠世 田浦哲也
中島敏明 吉野 毅
島田紘一 加寛裕子
黒川彰夫 野村みそら
田川絵理 岩田 博
濱田 進 横前秀幸
粕谷正一 森岡謙二
前田耕成 登坂秀雄
小田信夫

出席監事…宮澤光造

審議に先立ち、前年度逝去された絵画部・石黒厚子会員、鬼頭恭子会員、藤橋秀安会員、彫刻部・浅草義治会員に黙祷を捧げた。

議長に生方代表理事を、議事録署名人に生方、吉野、塙、各常務理事を選任し、事前配布資料によって審議に入った。

第1号議案

定款第5章第22条変更の件
外部理事および外部監事を招聘することに伴う役員定数の

増員について、定款変更案が2/3以上にあたる158票をもって採決され、可決・承認された。

第2号議案

令和7年度事業報告…

資料読み上げにより報告した。

第3号議案

令和7年度決算承認の件・財務諸表 同決算に関する監査報告…登坂理事・岩田理事資料に基づき経費削減数字をあげ、詳細に報告がなされた。

宮澤監事より適正に監査が行われた報告がなされ、過半数にあたる137票をもって承認された。

第4号議案

令和8年度事業計画報告…

資料読み上げにより8年度事業計画を報告した。

第5号議案

令和8年度正味財産増減予算書報告…登坂理事、岩田理事厳しい予算状況にあつて、審査全日出席会員の審査報酬と交通費補助の8割支給、全日でない審査出席者報酬3,000円支給の詳細説明があり、これを報告した。

第6号議案

任期満了に伴う役員選任の件

◆絵画部 部会報告

理事会に引き続き同会場に於いて絵画部会が開かれた。

山中常務理事により審査基準についてのアンケートに関する報告があり、続いて各支部長よりS20コンクールへの取り組み状況等、支部の近況報告がなされ、閉会となった。

◆彫刻部 部会報告

定時会員総会前、彫刻部会

が開催された。

新会員・新会友紹介、退会者報告、吉野代表より開会の挨拶の後、山田事務より彫刻部会計報告がなされ了承された。続いて川本選挙管理委員より一括選挙投票結果報告後、審議事項に入る。

①事務体制について宮澤監事より現行では彫刻事務が1人になってしまつたので、昨年の事務主任・新人会員（遠隔地事務）・今年度展示委員会チーフ・昨年度チーフの5人体制で発足する提案がされた。

②近年本部よりの事務手当は少額になっているので本部に増額要望すると同時に彫刻部費からも事務手当の補助を出せないか話された。

③彫刻事務5人体制は発足するが、事務手当等についての詳細は秋の彫刻部総会まで継続審議扱いとなる。

④運営委員会報告（廣瀬）

運営委員会便り二号・運営委員会活動報告どちらも今日に会員に発行出来ないのは問題であると報告。

展示委員会からは110回展示委員長（小田）より展示の基本的な考え方は例年通りとする方針が話され、オープンングトークは実施しないことが報告された。

最後に昨年の展示や今年の春季展についての意見や反省等が話された。

公益社団法人二科会 役職一覧（令和8年5月31日現在）

・代表理事（理事長）

吉野 毅

・常務理事

（総）山 中 宣

（総）塙 浦 珠

（総）田 谷 正

（総）粕 谷 裕

（総）加 寛 耕

（総）前 坂 秀

（総）登 成 雄

・理事

（総）岩 田 博

（総）濱 田 進

（総）野 村 正

（総）祝 迫 幸

（総）横 前 秀

（総）田 川 幸

（総）森 岡 理

（総）五 味 祥

（総）寺 田 眞

（総）深 見 子

（総）宮 澤 光

（総）小 田 信

（総）（外部）本 間 正

・監事

（総）米 田 弘

（総）渡 辺 文

（総）（外部）島 田 一

・名誉理事

（総）石 井 紫

（総）吉 附 織

（総）香 川 英

（総）川 内 猛

（総）中 原 悟

（総）生 方 純

（総）西 原 史

（総）中 島 健

（総）黒 川 敏

（総）菅 原 郎

・参与

（総）尾 崎 功

（総）日 高 健

（総）（外部）工 藤 子

・運営委員

（総）瀧 澤 福

（総）入 佐 賢

（総）皆 川 子

（総）山 下 恵

（総）佐 々 里

（総）谷 口 貞

（総）石 橋 夫

（総）茶 谷 宏

（総）有 泉 學

（総）（外部）佐 々 木

（総）廣 瀬 彦

（総）吉 田 郎

・事務局

（事務局）（事務局）

（事務局）（事務局）

（事務局）（事務局）

（事務局）（事務局）

（事務局）（事務局）

（事務局）（事務局）

（事務局）（事務局）

（事務局）（事務局）

（事務局）（事務局）

（事務局）（事務局）

（事務局）（事務局）

（事務局）（事務局）

（事務局）（事務局）

（事務局）（事務局）

（事務局）（事務局）

（事務局）（事務局）

（事務局）（事務局）

（事務局）（事務局）

（事務局）（事務局）

（事務局）（事務局）

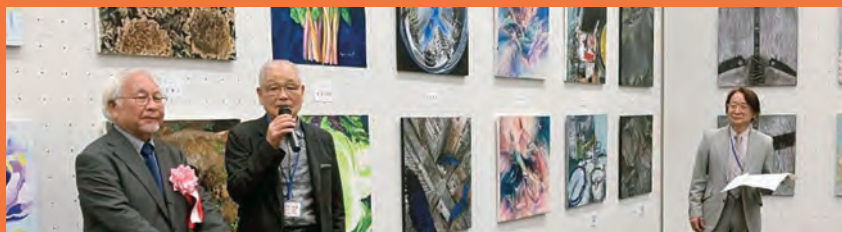
（事務局）（事務局）

（事務局）（事務局）



新名誉理事への記念品贈呈

新体制での第110回記念展を迎えて



理事長新任の挨拶



理事長

吉野 毅

第四十八回定時会員総会において、新役員案が承認され、新理事会で、はからずも理事長に推挙され、与えられた責務の大きさを感じています。

この秋、二科展は110回を迎えます。二科の伝統と歴史を更に充実させるため、任期中、公益社団法人二科会の発展のため運営に意を

注ぎたいと思っています。

絵画・彫刻・デザイン・写真の四部門の更なる連携、経営改善、新人育成等、幾多の提起されている問題を解決しながら、体制改善のため努力致します。

私の初出品は、第五十三回二科展です。長年に渡り、二科と共に歩み続け、その間多くの先輩の教えを得て、今日があると思っています。

是非会員の皆様のご支援とご協力をお願い致し、皆様と共に、二科会発展のために全力を尽くしていきたいと思っています。

退任の挨拶



名誉理事

生方 純一

この度、二科選挙改革委員会の提案に基づき、定年に達した役員として理事長を退任いたしました。在任中にはコロナ禍などもあり、活動を制限せざるを得ない不自由な時もありましたが、多くの会員、会友、出品者、また鑑賞者にご理解いただけたことに感謝申し上げます。

新体制には引き続き再選された理事の方々が中枢を担って活動されていく心強い次第です。今秋の

絵画部代表として

常務理事 山中宣明

会員総会、新理事会を経て、吉野毅新理事長となり新しい体制が発足します。

長きにわたり理事長として二科会を牽引してくださった生方先生、名誉理事になられた西先生、中島先生、黒川先生の長年のご功績に対し心より感謝申し上げます。

絵画部理事会の推薦をいただき、絵画部代表を務めさせていただきますこととなりました。

絵画部代表の役割は、吉野理事長のもと、あるべき二科会の運営やより充実した二科展にするには何をなすべきか、絵画部理事・運営委員会・会員の皆様のご意見やご要望を拝聴する窓口、調整役と認識しております。しかるべき方向性に民主的手続きを経て進めていく一助となるよう心掛けて参りたいと思います。

彫刻部の先生方とも密に連携を深めて魅力と振幅のある展示を目指したいと思っています。

「一生かけて作家になる」ための制作努力、会のための業務努力に邁進していく所存ですので、何かと至りませんがどうぞよろしくお願いいたします。

第110回記念二科展 特別講演

「新生二科」を標榜して
講師：吉野 毅 理事長



1914年に上野の地にスタートした二科展は、今年で記念となる110回の開催を迎えます。

2007年の国立新美術館への移転を機に、我々が目指した変革の日々をふり振り返りながら、次世代に向けた展望と今、そしてたゆまぬ変革の必要を語ります。

日時：9月12日(土)

講演：13時30分～15時

場所：国立新美術館3F講堂
応募：参加ご希望の方は、

二科会ホームページの講演・ワークショップ参加申し込みフォームにてお申し込み下さい。

定員：90名(先着順)

参加費：無料

参加申し込みは

こちらから↓



絵画部会員

藤橋 秀安氏



二〇二五年十二月二十四日逝去
享年89歳

略歴

一九七〇年 第55回展記念賞
一九八〇年 第65回展会友推挙
一九八九年 第74回展会友賞
一九九九年 第84回展会員推挙



早春 第108回展出品作

絵画部会友

川北美世子氏

二〇二六年二月九日逝去
享年93歳

略歴

二〇〇五年 第90回展特選
二〇一五年 第100回展記念賞・
会友推挙
二〇一六年 第101回展会友賞

絵画部会員

楯岡 和子氏



二〇二六年四月逝去
享年93歳

略歴

一九七八年 第63回展特選
一九八四年 第69回展会友推挙
一九九三年 第78回展会友賞
二〇〇二年 第87回展会友賞
二〇〇六年 第91回展会員推挙
二〇一九年 第104回展会員賞



花 第109回展出品作

絵画部会友

大野久四郎氏

二〇二六年二月十日逝去
享年80歳

略歴

二〇一六年 第101回展特選
二〇一八年 第103回展会友推挙

2026春季二科展の展示者数と展示点数

会場：東京都美術館 会期：2026年4月18日～5月2日

	(絵画)		(彫刻)		展示者数	展示点数
会員	141名 6つの個ブース (会員2名 会友1名 一般2名)	171点 (個展36点含)	54名 (会友9名含)	54点 (会友9点含)	195名	225点
選拔者	17名 (賞2名)	17点	5名	5点	22名	22点
S20入選者	200名	216点			200名	216点
計	358名	404点	59名	59点	417名	463点

【NIKA+nika/S20号コンクール】出品 329名・487点 入選 200名・216点 (2点入選16名)

トピックス

◇最終日のオーディエンス
賞授賞式には、受賞2回目
となる竹澤イチローさん、
初めて油彩で制作した「ひつ
じ雲」で受賞した17歳の加藤
玲依さんが出席し、副賞と
して生方理事長の小品がサ
プライズ贈呈され春季展最
後の盛り上げ役を果たした。
来場鑑賞者投票で選出する
この賞は、会員投票の選考
とは異なる結果であるのが
興味深い。



オーディエンス賞 加藤玲依さん

事務局だより

記念展には必然と二科展
の歴史を改めて振り返る事
になる。百周年展では二科
会を牽引して来られた作家
による数々の展示作品の熱
量を肌で感じ、また膨大な
記録で、二科会のドラマを
知る。二科会の歴史は、そ
の時代背景と作家の心が相
俟って、作品で語られ、伝
えられていく。

今年の四月、美術評論家
水沢勉先生の講演で語られ
た「オットー・ディックス
や新即物主義そして中原實
への繋がり、二科展だから
中原實が」とのお話に、
医師であり作家としての中
原實が二科会事務局に多大
なる支援のエピソードは事
務局に携わる者として感慨
深いものがある。

今年は中和ギャラリーの
久保様のご協力を得てS20
最優秀賞者の企画個展が開
催され、S20号の魅力と可
能性が更に広がった。

また日々二科会の情報
発信に労を惜しまないソ
ーシャルメディアHP班と
SNS班のメンバーによる
チームワークは次世代に繋
がる希望の若葉だと感じる。

二科会は今、役員改選
の年となり、新体制の組織

図が決まった。吉野理事長
のもと山中常務理事（絵画
部代表）をはじめ新しく外
部役員を加え、理事会が発
足。運営委員、各部委員の
協力を得て会を活性化する
健全な組織を具現化できた
らと思う。

常務理事また事務局長と
して私も事務局スタッフと
共にこの難局を乗り越え、
記念展にふさわしい本展に
なるよう日々準備をと思う。

名管理事に就任された懐
の深い生方純一前理事長。
そして二科愛溢れる西健
吉・中島敏明・黒川彰夫前
理事が名管理事に就任され
た。これからもご指導を仰
ぎながらの新体制となる。

二科会公式HP理事長挨拶に二科会趣旨として掲げられた「一流一派を問わず」の伝統精神を再認識し、人と人の心を大切にしての船出ができたと思う。

事務局長

埜 珠世

編集後記

◇春季展では絵画部のS20や個展形式の展示が印象的でした。このことを本号で一層アピールできたと思います。

秋季号では彫刻部から新委員が加わり、画期的な紙

面にしていきます。

（前田 耕成）

◇機関誌「二科」の編集長及び担当となつて15年余になります。即時性の高いソーシャルメディア発信が主流の時代にあつて、紙媒体の独自の機能と特性を生かし、より新鮮で斬新な発想が必要で。新人事、新体制の第110回記念展と、またその先を見据えて進みたいと思います。（野村 みそら）

◇今号から編集長となりました長崎支部の山口です。二科ニュースはこれまでの記録、広報誌としての紙面をホームページとSNSと連携していく転換期にあると感じています。変化は進化と感じていただけるよう頑張ります。（山口 博司）

編集委員

委員長 (絵)	山口 博司
委員 (絵)	渡辺 俊文子
委員 (彫)	酒井 とし子
委員 (彫)	山岡 明日香
委員 (彫)	佐々木 至
委員 (彫)	角谷 豊明
委員 (彫)	前田 耕成
委員 (彫)	野村 みそら
委員 (彫)	寺田 眞

令和八年六月三十日発行

公益社団法人 二科会

〒100-0022

東京都新宿区新宿4-3-15

レイファット新宿 501号室

電話 03-(3354) 6646

FAX 03-(3354) 4768